

## 2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚学科昼間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	耳鼻咽喉科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期 土曜集中	教室名	4校舎401
担 当 教 員	泉谷 泰行	実務経験とその関連資格	大学にて解剖学、生理学、病理病態学などの講義を行っている。			
《授業科目における学習内容》						
耳鼻咽喉の疾患は、聴覚、発声、発語、嚥下障害の原因となることから、言語聴覚士にとって必要となる知識である。従って、耳鼻咽喉・頭頸部領域の主要な疾患について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験を100%とし、60%以上を合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科』						
《授業外における学習方法》						
国家試験の過去問題を解き、出題の傾向を知る。						
《履修に当たっての留意点》						
耳鼻咽喉科の主要疾患の特徴を理解し、他科目と関連づけて理解してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳の構造と発生学について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	耳の解剖を学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚・平衡の生理学について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	耳の生理を学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚・平衡覚の検査法について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	耳疾患の検査法を学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	外耳・中耳の疾患、伝音性難聴について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	外耳・中耳の疾患を学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	内耳の疾患、感音性難聴について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	内耳の疾患を学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	平衡障害、顔面神経麻痺について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	平衡障害、顔面神経麻痺を学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	鼻副鼻腔の構造、機能、鼻疾患について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	鼻副鼻腔の解剖・機能・鼻腔の疾患を学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	副鼻腔疾患について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	副鼻腔疾患を学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔・唾液腺の構造・疾患について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	口腔・唾液腺の解剖・機能・疾患を学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	咽頭の構造、扁桃疾患、睡眠時無呼吸などについて説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	咽頭の解剖・機能・疾患を学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭の構造、神経支配、反回神経麻痺について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	喉頭の解剖、反回神経麻痺を学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害、呼吸困難を生じる疾患について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	喉頭疾患を学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	気管食道の構造、特に異物に関して説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	気管・食道を学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸部の構造、頸部疾患、特にリンパ節と甲状腺の疾患について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	頸部疾患を学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部癌の領域毎の特徴、治療法について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	頭頸部癌を学ぶ。		